

「令和6年度の検討状況について」

①昨年度までの協議内容と今年度の検討

昨年度は、既存施設の利活用調査を行い、既存施設状況や活用の組み合わせ、整備方針を整理しました。現庁舎、白樺コミュニティーセンター、旧当別小学校、NTT当別ビルの4施設を対象とし既存施設の活用による庁舎建設の組み合わせパターンの比較検討を行いました。町をとりまく情勢の変化があり新庁舎建設の時期について検討が必要と考え、現庁舎における耐震補強についての検討を行うことも新庁舎建設における整備方針として整理し、当別町新庁舎建設検討委員会の検討報告書として整理をしました。

今年度は、現庁舎耐震化の可能性について調査を進め、その調査結果を踏まえ、現庁舎の改修あるいは新庁舎建設について検討を進めたいと考えています。

昨年度確認した整備方針

- ①庁舎建設の目指すべき整備方針は「新築」を基本とし、既存施設を活用した分散配置も含めた整備とする。
- ②建設時期は、町を取り巻く情勢を見定めるため、遅らせることもやむを得ない判断と考える。
- ③「新築」までの期間は、現庁舎の耐震性の確保が優先事項となるため、早急に調査を行い耐震補強に向けた検討を進めることが必要と考える。
- ④検討委員会にて議論を進めてきた、まちづくりに寄与する庁舎建設などの基本構想に伴う意見は庁舎建替え等に対する提言とする。
- ⑤既存施設を活用した分散配置については、建設時期までの期間においても積極的に活用し利便性の向上など有効性を確認していく。

昨年度確認した現庁舎の主な状況

主な項目	現庁舎の主な状況
外装	<ul style="list-style-type: none">・裏側外壁にひび割れが多く見られる・窓に破損や結露が見られる
内装	<ul style="list-style-type: none">・床材の劣化が激しい・天井、壁に部分補修が必要となる箇所が見られる
バリアフリー	<ul style="list-style-type: none">・エレベーターがない・車いす用トイレがない・洋式トイレが少ない・トイレブースが狭い
特徴	<ul style="list-style-type: none">・トイレが狭く改修しにくい・空調設備がない

(令和5年度検討報告書より)

②今年度の検討フロー

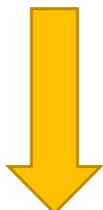
① 現庁舎の各調査による耐震化可能性調査

調査項目：地盤調査、構造体調査、劣化調査



② 耐震補強プラン検討

耐震性能基準検討、補強工法検討、恒久的利用改修検討
機能充実改修検討、仮設庁舎検討



《改修・耐震化可能と判断された場合》

③ 概算費用の試算

①②の結果から、改修などにかかる費用の試算算出



④ 比較・評価（11月下旬～12月初旬）

①～③の結果を踏まえて、現庁舎の活用が有効であるかの判断を行う

③令和6年度の調査・検討内容について

	内容
耐震補強の可否	「官庁施設の総合耐震計画基準」では、施設特性に応じた耐震性能の目標値が定められており、災害拠点施設として必要な構造体Ⅰ類、非構造部材A類、建築設備甲類を目標値とした補強方法を検討する。検討にあたり、ボーリングによる地盤調査、柱のコンクリートや鉄筋の状態を確認する構造体調査、内外装の劣化調査を行う。
内外装の老朽化改修方法	主な項目として、外壁、屋上防水、床壁天井の内装材、トイレ（多目的トイレ含む）の改修をバリアフリー対応を考慮して検討する。
機械・電気設備の老朽化改修方法	主な項目として、空調設備、配管設備、エレベーター設備、受変電設備、暖房設備の改修をバリアフリー対応を考慮して検討する。

④今年度のスケジュール

